へることあり、又天明二年の春、新見某、九段坂を馬にて通りけるに、落馬して、數十丈の深き牛が淵にまろび墜たれども、人も馬もいさゝか傷ことなし、されば衣服を改るまでにて、事故なかりき、此事を聞人、いとも不思議なることとて、尊き護符にても持たれしやと尋ね問ければ、されば、よ、或年、吾領知にて、雉子を一羽射とめんと云けるに、その矢それて中らず、再び射れども中らず、かゝればさま〳〵思ひを廻らし、術を以て捕え得て見るに、翼に四の文字あり、今その字を記して懷中せり、その驗しにてもあるべしと云耳囊とあり、何れも正しき記錄なれば、信ずるに足れり、

〔閑窓自語一〕靈元院疫癘和歌事

享保八年、病はやりて、人民多くうせぬ、靈元院の御うたあり、風ふかば本來雲のそらにふけ人にあたりて何の疫癘　此御製を、都鄙聞つたへて、かき云るし、守りとせしに、やめるものははやく治し、やまざるものは大かたのがれけるとぞ、

〔貞丈雜記十六神佛〕なで物と云は、是も陰陽師に祈禱を賴む時、陰陽師の方より、紙にて人形を作りて遣すを取て、身をなでゝ、陰陽師の方へ送れば、其人形を以て、祈禱する事有、扨後に川へ流す也、○中略

撫物

ひな形といふも此事也、紙二枚重ねて、二つに折て、折目を上にして如此きる也、大小不定、

如此切ヌキタルヲ切カヘセバ頭ニナルナリ

かた云ろの圖

折目

キリメ

キリメ

此所ケンサキノ如ク切リヌク也、前ノ方計切ヌク也、ウラニハ此切貫ナシ、